

中央支部だより

発行者
笠間市社協中央支部
編集
中央支部広報委員会
印刷
(有)シーエス

令和元年度代議員会開催 地域に根ざした活動方針きまる

去る四月二十八日（日）中央支部の代議員会が開催された。鈴木支部長の挨拶に続いて来賓あいさつ及び紹介があった。赤尾杉友一委員（西町二区長）が議長を務め、平成三十年度の事業・会計報告、続いて令和元年度の事業計画並びに予算案が事務局より提案され承認された。

◎活動の重点目標と事業内容

- (一)活動資金の確保
 - 会員会費の募集（七月）
 - 福祉バザー（十月）
- (二)高齢者福祉活動の推進
 - しあわせサロン散策
 - （五月に二班に分けて実施）
 - しあわせサロン会食会
 - （手打ちそば十二月）
- (三)地域福祉活動の推進
 - 敬老会の支援協力
 - 県立友部特別支援学校・福祉センター「たけのこ」の活動を支援
- (四)三世代交流の推進
 - 各行政区で実施される三世代交流会の支援
- (五)配食サービス
 - （毎月一回、十二月を除く）
 - 高齢者親善交流会（十月）
 - （グラウンドゴルフ、輪投げ）

ごあいさつ

支部長 入江 廣

この度、四月二十八日の代議員会に於いて支部長に選任されました。よろしくお願い申し上げます。
職責の重さに身の引き締まる思いであります。支部の円滑な運営に誠心誠意取り組んでまいります。
私たちを取り巻く状況は、少子高齢化や生活様式の多様化など、大きく変化しています。地域の皆様がつながりを大切に、安心して暮らせるような地域づくりを目的とした活動の推進に努力をしてまいります。
令和の新しい時代がスタートしました。支部役員一同一丸となって支部活動の向上に努めてまいりますので、皆様のご支援ご協力を切にお願い申し上げます。

平成30年度 決算報告書

【収入の部】

単位：円

科 目	決算額	摘 要
前年度繰越金	323,995	
会員会費還元金	929,750	市社協より
助成金	142,975	市社協より 福祉コミュニティ 広報助成金
バザー売上金	343,705	ふるさと祭り
雑収入	231,904	配食関係他
繰入金	0	
合計	1,972,329	

【支出の部】

単位：円

科 目	決算額	摘 要
会議費	31,116	お茶代
事務局費	30,940	
事務通信費	3,810	事務用品
事業費	1,397,895	会費地区還元金 457,000 三世代交流助成 40,000 グラウンドゴルフ輪投 55,516 配食サービス 500,748 広報誌発行 158,042 その他
バザー開催費	123,043	
研修費	49,804	支部委員・福祉推進員 等研修
予備費	0	
合計	1,636,608	

令和元年度 予算書

【収入の部】

単位：円

科 目	予算額	摘 要
前年度繰越金	335,721	
会員会費還元金	950,000	市社協より
助成金	140,000	市社協より 福祉コミュニティ 50,000 広報助成金 90,000
バザー売上金	300,000	
雑収入	184,279	配食弁当代 他
合計	1,910,000	

【支出の部】

単位：円

科 目	予算額	摘 要
会議費	50,000	お茶代
事務局費	30,000	
事務通信費	10,000	事務用品
事業費	1,555,000	会費地区還元金・グラウンドゴルフ・輪投 配食サービス・しあわせサロン 広報誌発行 その他
バザー開催費	150,000	バザー開催諸経費
研修費	80,000	支部委員・福祉推進員 むつみ会・広報委員・女性部
予備費	35,000	
合計	1,910,000	

令和元年度 支部役員紹介

支部長

入江 廣（新任）

副支部長

井坂フヂエ（再任）

副支部長

荒張 晴夫（再任）

副支部長

福島 和彦（新任）

会 計

栗股 克巳（新任）

会計監査

高野 康司（再任）

会計監査

藤枝 正一（新任）

しあわせサロンに参加して

星野みぐさ

令和元年五月二十四日五月晴れで雲ひとつない晴天に恵まれました。はじめに蔵の街栃木市に向かいました。出迎えてくれたのはボランティアガイドさんでした。丁寧でとてもわかり



最後は益子町にある外池酒造を訪れました。ほんのりとお酒の香りがする場所でお酒に関する説明を聞きました。八十歳以上の高齢者にもかわらず参加者全員無事帰途につくことが出来、有意義な一日を過ごさせて頂きました。笠間市社協中央支部の皆様、関係する皆様大変お世話になりました。

やすく説明して頂き、山車会館では縛らんきらびやかな立派な山車の数々を見る事が出来ました。二年に一度の山車まつりはさぞ豪快なことと思います。その後川に沿って散策しながら連なる蔵が目の前に現れ、遠い昔の歴史が蘇ってきました。その後昼食をご馳走になり、新生姜ミュージアムというめずらしい展示場を訪れました。そこはピンク色した生姜ファンタジーの世界に入りこんだようでした。生姜はいろいろな料理に使われ健康にもよいと聞いています。

女性部総会

四月二十九日、代議員会に続き、女性部総会が、開催されました。平成三十年度の活動も、皆様のご協力のおかげで、無事実施することが出来ました。

令和元年度は、支部役員の改選に伴い女性部役員も改選され、新役員でのスタートとなりました。

本年度の支部事業への協力として、毎月の配食にはじまり、バザーへの協力、しあわせサロンの手伝い等、みんなで確認致しました。

「中央支部のお弁当は、美味しいよ」という声が数多くあり、部員の励みになっております。

地域の様々な課題に対応し、支部活動に女性部として、協力出来るように、みんなで話し合い、知恵を出し合って、活動していきたいと思っております。本年度も、ご協力よろしくお願致します。

女性部役員紹介



部長
井坂フヂエ（再任）



副部長
松岡 和枝（再任）



副部長
高田 真弓（新任）



副部長
青木 重子（新任）

小田城跡・平沢官衙跡・筑波山神社を歩く

令和元年六月五日（水）、中央支部社協の役員研修として、小田城跡・平沢官衙跡・筑波山神社を訪ねた。

曇天でにわか雨の予報も出ていたが、入江廣支部長・鈴木征夫前支部長以下二十九名の役員・むつみ会の方々が参加して、元気に筑波山に向かった。バスの中で小田城・官衙遺跡・筑波山神社の学習をした。筑波山は奈良時代の『常陸国風土記』や『万葉集』に詠まれ、天下の名峰として親しまれてきた。

最初の学習地は、小田城跡である。「常陸小田城親衛隊」の河村兵庫さんが、ボランティアで案内してくれた。二〇分ほどのビデオで、小田城の概観を頭に入れてから、城跡を歩いた。小田城は、初代常陸国守護の八田知家が築き、小田氏が鎌倉・室町・戦国と四百年にわたって支配してきた城である。南北朝期には、後醍醐天皇の近臣北畠親房が『神皇正統記』を書いたことで知られる。前山・宝篋山・桜川を外郭とし、幾重にも堀を廻らした壮大な城であった。平成二十一年から七年かけて発掘調査

をして復元した。堀や土塁、城門・建物群など城の遺構がよくわかった。かなり広い城跡を一回りして、資料館に戻り、小田氏の歴史を学習した。初代知重、南朝支持の治久、小山犬若丸の乱の孝朝、最後の城主、氏治ら各代の業績が記してある。河村さんの含蓄ある講義を面白く聞いた。

小田の街並を通りぬけて、北条大沼から平沢官衙遺跡に移動した。ここは奈良時代の常陸国・筑波郡の役所・倉庫の跡である。昭和五十年の発掘調査で多くの遺構が出土し、同五十五年に国の史跡に指定され、高床式倉庫三棟が復元された。筑波山を見上げる景勝地である。

午前の学習はここまでで、昼食を筑波山神社前の「いしはま」でとった。神社は自由参拝になった。神橋は修復中で覆いが掛けてあり、見ることはできなかった。石段を何段も登り拝殿にたどり着いた。筑波山神社のご神体は男峰・女峰（伊邪那岐・伊邪那美）であるが、江戸時代に春日神社・日枝神社・厳島神社を合祀して筑波神が軽んじられた。拝殿前には、茅の輪が設けられて、左・右・左とくぐって健康を祈願した。若く、元気な人たちはケープブルーカーで山頂を極め、関東平野を一望し、靈気を吸ってきた。心配された雨も降らず薄日のさす天候で筑波山を満喫して下りてきた。



あとかぎ

今年の研修は、近間であったが、充実した学習ができた。事務局の矢口勝博さん、バスの運転手酒井亮さん大変お世話になった。感謝申し上げます。

平成から令和になって、早二か月が過ぎました。

今回は、代議員会・女性部総会を中心にスタートした新年度事業計画等を第115号としてお届けします。

また、広報委員の南秀利さん、菊地操さん、谷中久子さんが退任されました。長い間、お世話になりました。新たに、鈴木征夫さん、中村淑子さん、持丸すいさんが新任されました。広報委員一同、皆さまに親しんで読んでいただける広報誌づくりをめざしていきたいと思っております。

広報委員紹介

◎鈴木征夫 中村淑子

持丸すい 横堀義一

福島和彦

◎は委員長です。（福島）

令和元年度 支部委員・福祉推進員名簿					
支部長	入江 廣	(大沢中3)	推進員	渡沼 朗	(当の越1)
副支部長	荒張 晴夫	(緑町3)	同	大平 博	(当の越2)
同	福島 和彦	(桜 町)	同	阿久津昌子	同
同	井坂フヂエ	(青葉町)	同	武藤 裕子	同
会 計	栗股 克巳	(東町3)	同	上島 武男	同
会計監査	高野 康司	(桜 町)	同	長谷川悦子	同
同	藤枝 正一	(東町4)	同	秋山 文江	(友部栄町)
支部委員	友部 庄一	(東町1)	同	金澤 寛美	同
同	青木 義光	(東町2)	同	永堀 昌子	同
同	渡辺 終吉	(東町3)	同	加藤 文子	同
同	伊橋 龍介	(東町4)	同	細谷 久子	(緑町1)
同	荒川 昌之	(仲 町)	同	初田 謙治	同
同	成田 裕三	(南 町)	同	高橋 寛	同
同	富田 英明	(西町1)	同	谷津 恵子	(緑町2)
同	赤尾杉友一	(西町2)	同	岩波喜代美	同
同	上野 孝次	(桜 町)	同	大島 真澄	同
同	井川 征雄	(当の越1)	同	坂本さゆり	同
同	仲見川罔夫	(当の越2)	同	富田 秀子	同
同	川井 正之	(友部栄町)	同	松原 栄子	(緑町3)
同	郡司 正明	(緑町1)	同	松田 智行	同
同	山口 富男	(緑町2)	同	海老原信義	同
同	松原 敏夫	(緑町3)	同	松原 秀和	同
同	掛札 幸一	(美原団地)	同	中村 淑子	同
同	廣澤 守	(青葉町)	同	荒張 晴夫	同
同	中村 誠	(大沢中1)	同	森尻 智子	(美原団地)
同	今野 拓	(大沢中2)	同	熊谷 浩子	同
同	入江 廣	(大沢中3)	同	菊田 和子	同
同	松原 和雄	(幸 町)	同	澤井 愛子	同
推 進 員	加藤真知子	(東町1)	同	鶴田 芳郎	(青葉町)
同	山本 雄三	同	同	小池 道子	同
同	久野 幸雄	同	同	畑山 一美	同
同	深谷 政喜	同	同	黒澤 和明	同
同	山本千代子	同	同	掛札 弘子	同
同	青木 重子	(東町2)	同	佐々木哲夫	同
同	友部 敏江	同	同	半田 信行	同
同	上原 仁子	同	同	藤家 康子	同
同	深谷 薫	(東町3)	同	鎗木 孝之	同
同	物井 悠樹	同	同	井坂 哲男	同
同	瀧本 越平	同	同	井坂フヂエ	同
同	瀧本 勝代	同	同	菊地 操	(大沢中1)
同	照沼 智子	(東町4)	同	水越 健二	同
同	打越由美子	同	同	中村美千代	同
同	内桶 光明	同	同	西村 利治	同
同	国井 学	同	同	水越 愛子	同
同	平野 克幸	同	同	伊王野資豊	(大沢中2)
同	会沢 一博	同	同	仲川 貴之	同
同	久松 俊一	同	同	高野 雄三	同
同	伊橋 理代	同	同	遠藤久美子	同
同	荒川 昌之	(仲 町)	同	鈴木 幸一	同
同	村上さよ子	(南 町)	同	多川英久雄	同
同	福田 紀子	同	同	藤井 勝行	(大沢中3)
同	坂本 直美	同	同	入野 敏明	同
同	坂本奈央子	同	同	石川 和彦	同
同	富田紀久江	(西町1)	同	尾又 弘樹	同
同	櫻井三枝子	同	同	遠藤由美子	同
同	横倉 きん	(西町2)	同	森川 力也	同
同	神崎 昭子	同	同	平山 勝	同
同	鶴田 弘司	(桜 町)	同	野村 省治	同
同	高安 たみ	同	同	嘉代 健二	同
同	福島 和彦	同	同	五十嵐かづえ	同
同	菅谷 正子	同	同	高田 真弓	同
同	須藤 敏夫	同	同	菅原 宗義	(幸 町)
同	沼田トキヨ	同	同	阿久津一典	同
同	鹿崎 幸子	同	同	興津 正一	同
同	高野 康司	同	同	矢田部宏子	同
同	河原井和子	(当の越1)	同	塚越 一雄	同
同	深澤 恭子	同	同	鈴木 征夫	同
同	深澤 和彦	同			